

新旧対照表

旧	新
<p>1～4 (略)</p> <p>5 目標を達成するために行う事業</p> <p>5-1 全体の概要</p> <p>難病児自然体験施設の実現には、地域内外から運営を担い難病児をサポートする質の高い人材の確保・育成が不可欠である。<u>そのための方策として地域の大学や道内の医療系・福祉系大学にプロジェクトへの参画を促し連携を推進する。将来的には、大学のカリキュラムとしてボランティア活動を取り入れることができれば、恒常的なボランティアの確保のみならず、大学と地域の双方が共に発展する好循環を形成することが可能となる。あわせて、難病児が安全に安心して自然体験を楽しむためには、医療資格をもったボランティアの参加や緊急時の医療体制の確立が不可欠であり、滝川市医師会との連携をはじめ、北海道医師会、北海道看護師会、大学病院など各種医療機関への協力・連携の働きかけを行う。</u></p> <p><u>また、地域内に存在する団体や既存施設などの資源を最大限活用する中で、難病児が参加するプレキャンプを実施し、提供できるプログラムの検証や医療体制の検証、参加者のニーズを把握するとともに、医療面に配慮したキャンププログラムを担える人材の育成を行う。</u></p> <p>ハード面では質の高い環境を整えるために、市内北部の丘陵地帯に春・夏・秋・冬、季節によって表情が変わり四季を通じて難病の子どもたちが楽しめる森の整備を行うとともに、医療設備の整った自然体験施設を建設する。そこでは難病の子どもたちが日常の闘病生活から離れ、貴重な時間</p>	<p>1～4 (略)</p> <p>5 目標を達成するために行う事業</p> <p>5-1 全体の概要</p> <p>難病児自然体験施設の実現には、地域内外から運営を担い難病児をサポートする質の高い人材の確保・育成が不可欠である<u>とともに、難病児に配慮した自然体験プログラムの開発、救急医療体制の確立、地域との連携が求められている。このような中、平成 18 年度市民活動団体等支援総合事業により、医療や野外活動のスキルを持ったマンパワーの確保・育成、地域の特色を活かしたプログラムの開発等に成果をあげてきたところである。</u></p> <p><u>しかし、救急医療体制の確立や地域との連携においては、多くの主体と実際に協働を進める上で、事業目的の共有や役割分担の明確化などの課題があり、実践を通じた支援体制の確立が求められている。</u></p> <p><u>このような中、平成 19 年度市民活動団体等支援総合事業では、必要に応じた適切な医療処置及び救急搬送実現のために、地域の病院や消防の協力のもと救急医療体制を確立する。また、地域の大学や道内の医療系・福祉系大学にプロジェクトへの参画を促し、医療ネットワークの形成を目指した連携を推進するとともに、子どもの状態に合わせたアクティビティを提供するために、外部団体のプログラム協力や野外活動スキルを持った人材とのネットワークづくりに取り組む。定期的な研修システム確立のためには、将来的な大学のカリキュラム化を目指し、地域の大学と連携した公開講座を開催する。</u></p>

を雄大な自然の中で過ごし、仲間との素晴らしい思い出や病気とたたかう明日への活力を得ることができる。

これらの一連の活動をシンポジウムやマスメディアなどを通じて広く情報発信することで支援の輪を広げ、難病児自然体験施設を中核とする優しいまちづくりに向けたムーブメントをおこす。それが「優しさ」や「ホスピタリティ」を持つという市民意識の変化をもたらし、ノーマライゼーションのまちづくりを実現する契機となる。

さらには、資金面において地域で支える仕組みとして、地域の農産物や特産品などを難病児自然体験施設への資金支援を目的としたブランド化を賛同企業や農業者との連携により推進する。

5-2 (略)

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

こうした連携の成果を実践する場として、地域内に存在する団体や既存施設などの資源を最大限活用する中で、各種医療機関や難病児支援団体の協力のもと全国から小児がんの子どもを募集し、プレキャンプを行う。様々な実践を通じて、提供できるプログラムの検証や医療体制の検証、参加者のニーズを把握するとともに、医療面に配慮したキャンププログラムを担える人材の育成を引き続き行う。

ハード面では質の高い環境を整えるために、市内北部の丘陵地帯に春・夏・秋・冬、季節によって表情が変わり四季を通じて難病の子どもたちが楽しめる森の整備を行うとともに、医療設備の整った自然体験施設を建設する。そこでは難病の子どもたちが日常の闘病生活から離れ、貴重な時間を雄大な自然の中で過ごし、仲間との素晴らしい思い出や病気とたたかう明日への活力を得ることができる。

これらの一連の活動をシンポジウムやマスメディアなどを通じて広く情報発信することで支援の輪を広げ、難病児自然体験施設を中核とする優しいまちづくりに向けたムーブメントをおこす。それが「優しさ」や「ホスピタリティ」を持つという市民意識の変化をもたらし、ノーマライゼーションのまちづくりを実現する契機となる。

さらには、資金面において地域で支える仕組みとして、地域の農産物や特産品などを難病児自然体験施設への資金支援を目的としたブランド化を賛同企業や農業者との連携により推進する。

5-2 (略)

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

【C2001】地域再生に資するNPO等の活動支援（内閣府）

■市民活動団体等支援総合事業：

「難病児自然体験施設（そらぶちキッズキャンプ）及びプログラムを支える人材育成事業」

難病児自然体験施設の運営を担い、病気とたたかう子どもたちやその家族が「思い出」や「生きる力」、「希望」を得ることができるようサポートするホスピタリティあふれる人材（ボランティア）の確保・育成を図るとともに、医療面に配慮した自然体験プログラムの開発を行う。

また、それらの取り組みに対し、地域の医療機関や市民団体等が参画できるような機会を創出し、医療体制の確立や地域との連携の実現を目指す。

《事業項目》

①米国難病児自然体験施設の調査

先進事例である米国難病児自然体験施設における人材育成やプログラム運営のノウハウについて以下の事項を調査する。

- ・ボランティア研修カリキュラム（一般用・医療用）の調査
- ・ボランティアマニュアル（一般用・医療用）の資料翻訳
- ・自然体験プログラム（セラピューティックレクリエーション）の調査
- ・米国難病児自然体験施設関係者へのヒアリング調査

②日本におけるボランティアカリキュラム等を作成

米国の事例を参考に、日本の文化にあったシステムを構築するため、地域の医療機関や市民団体等の協力を得て、「ボランティア研修カリキュ

【C2001】市民活動団体等支援総合事業（内閣府）

■平成18年度市民活動団体等支援総合事業：

「難病児自然体験施設（そらぶちキッズキャンプ）及びプログラムを支える人材育成事業」

難病児自然体験施設の運営を担い、病気とたたかう子どもたちやその家族が「思い出」や「生きる力」、「希望」を得ることができるようサポートするホスピタリティあふれる人材（ボランティア）の確保・育成を図るとともに、医療面に配慮した自然体験プログラムの開発を行う。

また、それらの取り組みに対し、地域の医療機関や市民団体等が参画できるような機会を創出し、医療体制の確立や地域との連携の実現を目指す。

《事業項目》

①米国難病児自然体験施設の調査

先進事例である米国難病児自然体験施設における人材育成やプログラム運営のノウハウについて以下の事項を調査する。

- ・ボランティア研修カリキュラム（一般用・医療用）の調査
- ・ボランティアマニュアル（一般用・医療用）の資料翻訳
- ・自然体験プログラム（セラピューティックレクリエーション）の調査
- ・米国難病児自然体験施設関係者へのヒアリング調査

②日本におけるボランティアカリキュラム等を作成

米国の事例を参考に、日本の文化にあったシステムを構築するため、地域の医療機関や市民団体等の協力を得て、「ボランティア研修カリキュ

ラム」「ボランティアマニュアル」「自然体験プログラム」を協働で作成する。この協働作業は、人材育成、医療体制の確立、地域との連携にもつながる。

③ボランティア研修等の試行実験

作成したボランティア研修カリキュラム等を検証するため、実際にボランティア研修等の試行実験を行う。

- ・年間を通じたボランティア研修（一般用・医療用）

地域の人々を対象にしたボランティア研修と医療関係者を対象にしたボランティア研修を継続実施する。その際、翻訳したボランティアマニュアルを用いる。

- ・病気経験者を招待したプレキャンプ（研修キャンプ）：4日間程度

ボランティアスキルやキャンププログラムの検証・向上を目的としたプレキャンプを行う。病気が完治した青年（病気経験者）の参加により、参加者側からの視点でボランティアやプログラムに対する意見をもらう。このキャンプには、地域の医療機関や市民団体等にも参加してもらう。

④ボランティア研修等の検証

試行実験したボランティア研修やプレキャンプを検証し、カリキュラムやマニュアル等をブラッシュアップする。この検証には、参加した病気経験者やボランティアだけでなく、地域の医療機関や市民団体等にも参加してもらい、対象ごとの会議（ワークショップ）を開催する。

ラム」「ボランティアマニュアル」「自然体験プログラム」を協働で作成する。この協働作業は、人材育成、医療体制の確立、地域との連携にもつながる。

③ボランティア研修等の試行実験

作成したボランティア研修カリキュラム等を検証するため、実際にボランティア研修等の試行実験を行う。

- ・年間を通じたボランティア研修（一般用・医療用）

地域の人々を対象にしたボランティア研修と医療関係者を対象にしたボランティア研修を継続実施する。その際、翻訳したボランティアマニュアルを用いる。

- ・病気経験者を招待したプレキャンプ（研修キャンプ）：4日間程度

ボランティアスキルやキャンププログラムの検証・向上を目的としたプレキャンプを行う。病気が完治した青年（病気経験者）の参加により、参加者側からの視点でボランティアやプログラムに対する意見をもらう。このキャンプには、地域の医療機関や市民団体等にも参加してもらう。

④ボランティア研修等の検証

試行実験したボランティア研修やプレキャンプを検証し、カリキュラムやマニュアル等をブラッシュアップする。この検証には、参加した病気経験者やボランティアだけでなく、地域の医療機関や市民団体等にも参加してもらい、対象ごとの会議（ワークショップ）を開催する。

⑤検証結果の共有（キャンプのPR：人材確保・連携促進・市民意識の啓発）

検証結果に関わったすべての主体で共有するとともに、キャンプのPR（人材確保）や様々な連携促進、市民意識の啓発のため、以下の2種類のシンポジウムを開催する。

・ボランティア、プログラムをテーマにしたシンポジウム

特にボランティアのあり方や研修内容、プログラムについての集団討論を行うためシンポジウムを開催する。その中で地域との連携を模索する。

・医療ケアをテーマにしたシンポジウム

特にキャンプにおける専門的な医療ケアにテーマを絞り、集団討論を行う。対象は医療関係者とし、医師や看護師など医療資格を持った人材の確保及び医療体制の確立を目指す。

⑤検証結果の共有（キャンプのPR：人材確保・連携促進・市民意識の啓発）

検証結果に関わったすべての主体で共有するとともに、キャンプのPR（人材確保）や様々な連携促進、市民意識の啓発のため、以下の2種類のシンポジウムを開催する。

・ボランティア、プログラムをテーマにしたシンポジウム

特にボランティアのあり方や研修内容、プログラムについての集団討論を行うためシンポジウムを開催する。その中で地域との連携を模索する。

・医療ケアをテーマにしたシンポジウム

特にキャンプにおける専門的な医療ケアにテーマを絞り、集団討論を行う。対象は医療関係者とし、医師や看護師など医療資格を持った人材の確保及び医療体制の確立を目指す。

■平成19年度市民活動団体等支援総合事業：

「難病児自然体験施設（そらぷちキッズキャンプ）を支えるネットワーク形成促進事業」

難病児自然体験施設を実現するために必要な医療支援・野外活動支援・地域支援といった各分野から多様な主体の参画を促し連携を進め、それら支援ネットワークの実践の場として難病児を招待したプレキャンプを実施する。

《事業項目》

①医療支援ネットワークの形成

- ・ 地域の総合医療機関である滝川市立病院との連携による医療体制の確立
- ・ 滝川地区広域消防事務組合との連携による救急搬送体制の確立
- ・ 北海道内医療系機関及び大学とのネットワークづくり（難病児や学生ボランティアの紹介等）

②野外活動支援ネットワークの形成

- ・ 野外活動に関するノウハウを持つ地域の大学（國學院短期大学）との連携（市民を対象とした公開講座を開催し、定期的なボランティアトレーニングを行う。）
- ・ 北海道内の野外活動団体とのネットワークづくり（プログラムの支援やボランティアの紹介等）

③その他の地域支援ネットワークの形成

地域の多様な主体が関わることができる仕組みづくりとして、難病児に提供する人形の製作、地域特産品のチャリティ販売、募金箱の設置等を実施することで、地域支援のネットワークを広げる。

④試行実験としてのプレキャンプ実施

これら連携の成果（実践の場）として、また前年より育成してきたボランティアの実践の場として、全国から小児がんなどの病気とたたかっている難病児を招待し、プレキャンプを実施する。

- ・ 8/24（金）～27（月） 全国から小児がん（寛解期）の子どもたち

を15名程度募集し実施する。

⑤ネットワーク形成の検証

試行実験（プレキャンプ等）の結果をふまえ、本事業との協働における地域ニーズや効果を分析し、地域ネットワーク形成に向けた検証、方針設定を行う。

5-3-2 支援措置によらない主な独自の取り組み

5-3-2 支援措置によらない主な独自の取り組み

①大学との連携推進事業（NPO・滝川市）

地域内外から難病児をサポートする質の高い人材を確保・育成するために、地域の大学や道内の医療系・福祉系大学にプロジェクトへの参画を促し、将来的なボランティア活動のカリキュラム化を見据えた連携を推進する。

②医療機関との連携推進事業（NPO・滝川市医師会・滝川市）

安全に安心して難病児を受け入れるには、医療機関との連携が不可欠であり、医師や看護師など医療資格をもったボランティアの参画を促すとともに医療体制の確立を図る。

③そらぶちの森造成事業（滝川市）

難病の子どもたちが日常の闘病生活から離れ、貴重な時間を雄大な自然の中で過ごし、仲間との素晴らしい思い出や病気とたたかう明日への活力を得ることができる質の高い環境を整えるために、市内北部の丘陵地帯に春・夏・秋・冬、季節によって表情が変わり四季を通じて難病の子どもたちが楽しめる森の整備を行う。

①そらぶちの森造成事業（滝川市）

難病の子どもたちが日常の闘病生活から離れ、貴重な時間を雄大な自然の中で過ごし、仲間との素晴らしい思い出や病気とたたかう明日への活力を得ることができる質の高い環境を整えるために、市内北部の丘陵地帯に春・夏・秋・冬、季節によって表情が変わり四季を通じて難病の子どもたちが楽しめる森の整備を行う。

④そらぷちキッズキャンプ建設事業（NPO）

プレキャンプに参加した子どもたちやボランティアの意見を取り入れつつ、難病の子どもたちが安全に安心して自然体験を楽しめるよう医療設備の整ったキャンプ場をそらぷちの森に建設する。資金面では、プロジェクトの主旨に賛同いただける企業や篤志家を募り、建設資金及び運営資金を調達する。

⑤地域産品の難病児自然体験施設ブランド化による資金支援（NPO・滝川市）

難病児自然体験施設の運営に対する資金面での支援方策として、地域の企業や農業者の協力を得て、特産品や農産品のブランド化を推進する。ブランド化した商品を販売した益金の一部を運営費に充てる。

⑥その他の取り組み

難病児自然体験施設の活動に賛同いただける民間企業や市民団体を募集し、様々な形態で参画できる仕組みを構築し、優しいまちづくりを推進するムーブメントをおこす。

6 計画期間
(以下略)

②そらぷちキッズキャンプ建設事業（NPO）

プレキャンプに参加した子どもたちやボランティアの意見を取り入れつつ、難病の子どもたちが安全に安心して自然体験を楽しめるよう医療設備の整ったキャンプ場をそらぷちの森に建設する。資金面では、プロジェクトの主旨に賛同いただける企業や篤志家を募り、建設資金及び運営資金を調達する。

③地域産品の難病児自然体験施設ブランド化による資金支援（NPO・滝川市）

難病児自然体験施設の運営に対する資金面での支援方策として、地域の企業や農業者の協力を得て、特産品や農産品のブランド化を推進する。ブランド化した商品を販売した益金の一部を運営費に充てる。

④その他の取り組み

難病児自然体験施設の活動に賛同いただける民間企業や市民団体を募集し、様々な形態で参画できる仕組みを構築し、優しいまちづくりを推進するムーブメントをおこす。

6 計画期間
(以下略)